

ピア・サポーター感想

- 院内サロンなど大勢が集まる場より個人的な深い話ができる。
- オストメイトの先輩としての具体的な話が大いに役立ったと言ってもらえてうれしかった。
- 自分と違うがんの話聞いて勉強になる。
- まだまだ知識不足を感じる。もっと勉強したい。

課題

- 利用者の増加に伴う、ピア・サポーターの不足
- 活動機会や、場所の確保・拡大

今後の展望

- サポーターの人材育成
 - ⇒母数を増やす、幅を広げる
 - がん種（希少がん等）
 - 立場（家族や遺族）
 - 年代、家族・社会的役割
- 活動場所
 - ⇒医療関係者の理解・協力を得る
 - ⇒地域拠点病院での開催を計画中

2期生養成講座

平成24年度
千葉県がんピア・サポーター養成研修
受講生募集！

ピア・サポーターとは、ピア（仲間）とサポーター（支援者）を合わせた言葉です。この研修では、ピア・サポーターとして必要なスキルを学びます。ご自身のがん体験を生かしながら、他のがん患者さんやご家族の不安・悩みを和らげるお手伝いをしてみませんか。

ピア・サポーターってどんなことをするの？

- がん患者さんや家族の不安な気持ちや悩みを傾聴する。
- サポーター自身の体験を語る。
- 病院の相談支援センター等相談できるところを紹介するなど。

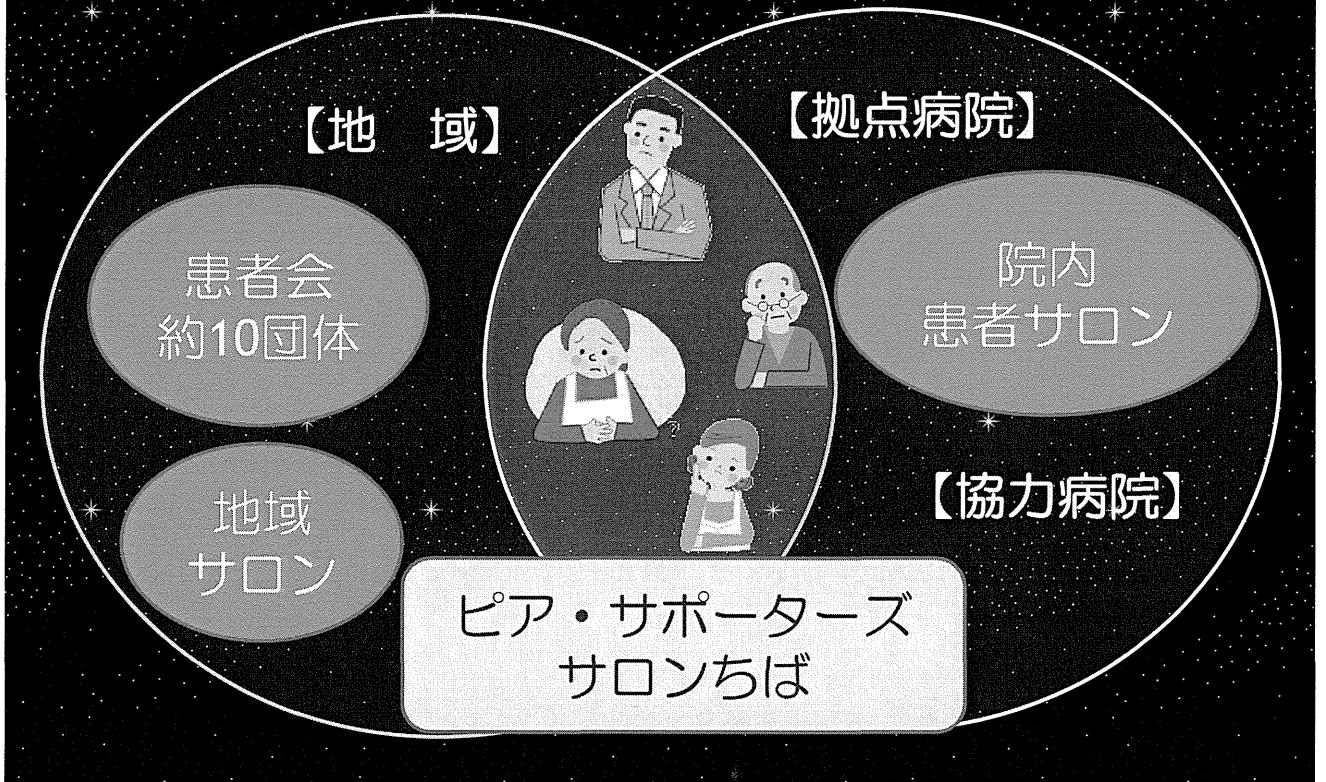
受講費：無料
日 程：平成24年11月17日（土）、18日（日）、12月8日（土）、平成25年2月23日（土）、24日（日） 計5日間
会 場：千葉県がんセンター（千葉市中央区に戸名666-2）
募集人員：20名程度
応募締切：平成24年9月20日（木）必着
詳細は、「千葉県がんピア・サポーター養成研修」事務局まで
Tel：043-264-5431（内線2530） E-mail:chikitokatsu@chiba-cc.jp
または、以下のURLの「お知らせ」欄からご覧ください。
<http://www.chiba-cc.jp>（千葉県がんセンター）

主催：千葉県地域統括相談支援センター

- 2012年 11月開講
 - 募集人数 20名
 - 時間数 5日間33時間
 - 受講資格 がん患者
家族
- 自分の体験を生かし
他の患者さんやご家族のサポートを希望する人

10月 1期生のフォローアップ講座

今後の展望



ご静聴ありがとうございました

野田先生の発表後の Q&A

Q1.

野田さんは、支えあう会「α」でずっと活動されてこられた経緯があると思います。患者さんのなかには、患者会の会員になるとかではなく、誰でも、いつでも好きなときに出たり入ったりできる、井戸端会議みたいところが欲しいというご意見があります。ただ、患者会の方々も、活動の様子をお聞きしていると、特に会員でなければだめという強い縛りがあるわけではなくて、会員以外の方も一緒に集まっているいろいろとお話し合いをしたりとか、相談をしたりとかという活動もされていらっしゃると思います。また、患者会の方々も、皆さん本当に手弁当で、特に運営する立場の方々は大変なご苦労もされているのだなと思っていました。野田さんは、医療機関でのサロン、それと地域で今あるサロンの両方に多分かわられて、地域で育った患者団体の活動もされていらっしゃると思います。個人的な考えとしてお聞きしたいのですが、その2つは同じであるべきなのでしょうか、それとも何か違いがあつて、ここはこうしたほうがいい、こっちはこういう活動があつたほうがいいという何か差異を求めたほうがいいものなのでしょうか。今までのご経験から教えていただけたらと思います。

A1.

医療現場と地域で差異が必要というより、サロン自体が元々とても多様性のあるものだと思います。今日も発表の中でいろいろなタイプのサロンが出てきました。私が長く活動に参加している支えあう会「α」という患者会でも、早くからサロンをやってきましたが、いろいろ形を変えてきていまして、ずっと同じ一つの形式ではないのです。

それは、ニーズがそれぞれあるということも関係します。我々はこの形でやると枠を決めてやるのもいいと思いますが、やはり多様性があるということがすごく重要だと思います。患者会では私たちが考えながら柔軟にやっていけばいいと思いますが、病院の中でも同じようにさまざまなサロンを取りそろえてというのは、現実的にはなかなか難しいと感じてはいます。

ただ、今日も先ほどご紹介いただいたように、最初は医療者の方たちがやっていたけれども、だんだん患者さん達がやるようになったとか、そういうふうと一緒にやる人、それから協力者が増えてくると、いろいろな多様性が病院の中でも作っていただけるのではないかと思います。私は病院の中であろうが地域であろうが両方が多様性を持つようになればいいと思います。

ですから、きっちり病院はこうあるべきとか、地域はこのほうがいいのではないかという差異をつける必要はなくて、利用する人のニーズに応じたサロンがいろいろなところに出てきて、場が増えていけばいいのではないかと思います。

石川さんの発表の中に患者会のようなものが院内にある必要があるのかというようなことがありましたが、院内にある意味もあると思います。今、治療をしていて具合が悪いとか、お金があまりないとか、時間がないとかとなると、わざわざ地域の患者会に足を運ぶのは大変だと思います。病院に行つたついでに地域の患者会で得られるようなサポートが得られたら、患者

さんにとっては便利だと思うのです。そういう意味からも、場所で差異をつける必要はないのではないかというのが私の個人的な見解です。

Q2.

サロンでは、テーブルのサイズをいろいろバラバラにして、一対一もあれば一対多もあるし、多対多もあるということでした。

患者さんのニーズに応じて対応、いろいろな対応ができるということだと思いますが、その中で一対一などの患者さんが、この場ではなくてもっとプライベートルームみたいなところで相談にのってほしいというようなニーズがあったりしますか。

あった場合どのような対応をされているのか、そこについて教えてください。

A2.

そうですね。もっと踏み込んだ話をしたいとか聞きたいということも出てきます。そういった場合は、患者相談支援室の一角を利用させていただくとか、あるいは専門的なサポートが必要とか情報が必要などということも時にはありますので、そういったときはがん専門相談員につないでいただくこともあります。

でも、サロンでは一対一で深くというよりは、2対1とか2対2ぐらいのほうが、初対面の方同志では、それは話としてはしやすいようです。

Q3.

千葉県がんセンターの患者サロンというのがあって、そのなかの「おしゃべりルーム千葉」でオレンジティと協働とありますが、具体的にどのような役割分担をして運営するのか、そのかわりあい、どのように活動なさっているか教えてください。

A3.

私たちは、当初、できれば、「おしゃべりルーム」のやり方、パッケージそのままを、院内でできないかということをやっと模索したんです。それは、これまでお話したように、地域に出ていくのはなかなかハードルが高いということがあり、病院の中でできないかという希望がありました。ただ、これはオレンジティさんの方針として、あくまでも地域にきちんと足を置いてやるということだったので、地域で行なっています。

では、千葉県がんセンターとしてどのようにかかわっているかというと、会場の手配や広報、当日の運営のお手伝いをしています。また、ファシリテーターのお手伝いをすることもありますが、あくまでも主体はオレンジティです。そこに私たちができるお手伝いをする、労力を提供するというようなイメージで考えていただければと思います。

IV グループ討議

グループ討議について

会議後半では、小グループ（8人程度）にわかれて、グループ討議を行います。

テーマ：サロンの工夫と課題

【グループ討議までをお願いしたいこと】

- (1) サロン運用に関する工夫や課題について、お一人最低3つ（工夫と課題あわせて、あるいはどちらか一方だけ3つでも構いません）のご意見を考え、配付資料に入っている付箋にお書きください（1付箋=1ご意見）。
- (2) 付箋が足りない場合は、担当者にお申し出ください。
- (3) あらかじめ考えられていたものと変更されても構いませんし、いくつでも構いません。無記名でお願いします。

【グループ討議の準備（10分）】

- (1) 前後と横の机を4つ分あわせてお座りください。
- (2) 係の者が模造紙を配布いたします。模造紙が足りない場合は、お申し出ください。
- (3) 「司会」、「書記」、「発表者」をジャンケンで決めてください。
- (4) 簡単に自己紹介してください。一人一言でお願いします（長くなると、意見交換ができません。ご注意ください）。

【グループ討議の進め方】

- (1)（司会等決定、自己紹介等終了後）、まず各自意見を書いた付箋を模造紙に貼り付けます。
- (2) その際、同じような内容の意見は並べるようにします。
- (3) 付箋を貼り終わったら、グループ全体で話し合い、似たような意見をまとめてタイトルをつけて整理したり、似たような内容を集めた意見のまとめり同士の関係を明らかにしたりします。
また、ご意見をもとに、その内容に関してさらにグループ内で意見交換し内容をできるだけ具体的に実践で参考にできるように固めてください。
（ボード用マーカーを準備しています）
- (4) 発表用に、各グループでの意見交換をまとめてください（10分程度）。書記の方は、記録をお願いします。
発表は、各グループ3分以内です。
- (5) 全体で意見交換します。

1 グループ

【付箋】

1. 課題

(1)地域のサロンとのつながり

- 地域の患者会と患者サロンのつながり方
- 地域のサロンと交流
- 地域への広報活動

(2)時間・場所

- 時間の設定（平日だと仕事をしている人がこれない）
- 場所の設定・雰囲気作り
- 参加人数をあげるためよりよい開催時間

(3)参加者数

- 利用者：男性が少ない
- 人が集まらない
- 参加者が集まらない
- 参加者を増やしたいが、参加者の不利益を考えると、むやみに門を広げられない（広報をどうするか）
- 地域への広報活動

(4)サポートする患者を増やす

- 世話人（患者・経験者）がでない
- サポーター育成
- サロン開催時の担当患者さんは、何人必要か

(5)スタッフ（サポートする患者を増やすと二重円になっており、こちらは外円）

スタッフ> サポートする患者を増やす

- 協力者が増えない
- （両方にかかる）患者さんやご家族『主体』で行うためのかわり方

(6)異なるニーズへの対応

- 知識を入れたい、話がしたいというニーズの差がある
- がん種別にしたほうがよいのか
- 参加者の素直な意見・感想の把握が困難

2. チーム

- サロンを立ち上げられない
- 開催に向けて具体的な検討が進まない
- 院内サロンを立ち上げる場合の主催する部署はどこがよいか
- 院内サロン開催の応援メンバー

MSW、院内緩和ケアサポートチーム、口腔ケアチーム

3. 工夫

(1)環境・雰囲気

- 病院敷地内で、病院と別 サロン用の建物（民家）
- 病院スタッフ常駐（相談員・看護師） 安心感につながる
- （院内サロンなので）病院であるということを感じさせない工夫（環境整備）：
テーブルクロス、音楽
- お茶・お菓子でリラックスできる雰囲気にする

(2)ニーズにあわせた企画

- 参加人数を増やすため、開催日時・場所などを変更してみる
- ミニ講演会も同時開催する
- 多職種の専門性をいかした相談コーナー
- 利用者のニーズ調査実施（アンケート、聞き取り等）

(3)広報

- 市民向けにサロン PR（講演会、利用者が講演）

【まとめ】

1. 課題

- 異なるニーズへの対応（がん種別）
- 運営スタッフ集め
- 参加者 増

2. 工夫

- ニーズにあわせた企画
- 環境・雰囲気
- チーム（立ち上げられないメンバー）

3. よりよいサロン運営をめざして

- 参加者集め、時間、場所
- スタッフ、利用者
- 異なるニーズへの対応
- 地域へのつながり
- 広報活動で増したい。

2 グループ

【付箋】

1. 認識度：参加者少ない

- 参加者が少ないため、体験者同士の交流というよりもスタッフへの相談の時間となりがち。
- 参加人数が少ない。せまい地域なので病気を知られたくないという方が多い。
- 参加しやすい方法（詳しく説明してほしい）
- 広報（当院ホームページ、新聞、院内広報誌、地方情報誌など）を積極的に行う。
- サロンの認知度が低い。必要な人に伝わっていない。
- 院内スタッフにがんサロンが認知されていない（何をしているのか？という感じもある）
- サロン開催の場所がわかりにくい。
- サロンに患者を誘導して参加を促す方法

2. 運営方法

(1)がん種・グループ分け

- がん種が違う場合、また病期が違う参加者にどのように対応したらよいか。
- （工夫）できるだけ、同じがん種の人、家族同士、女性同士・・・でグループ分けしている
- がん種が少ない「同じがん種の方の話が聞きたい」という要望に応えられない
- （課題）がんの治療期によるサロン、交流会、グループ分けどのようにしたらよいか

(2)コミュニケーション

- （工夫）お互いの立場を尊重して密にコミュニケーションをとる。
- （課題）亡くなって参加されなくなった患者のことをサロン参加者に伝えるかどうか
- 参加しやすい雰囲気作りはどうしたらよいか。

3. 運営スタッフ

- 多職種がかかわっているため、院内での位置づけがあいまいである。責任の所在がはっきりしていない
- スタッフのグループワークスキルが低い
- 中心になってくれる患者さんが見つからない
- 運営にかかわる患者さんの負担が大きい
- (工夫) グループに医療者 2 人がファシリテーターとして入るようにしている
- ボランティア (がん経験者) の協力を得ている。運営に参加してもらう
- ピアサポーターの役割はどのような立場としたらよいか
- ピアサポーター養成プログラムはどこで入手するのか？

4. 目的・方針の共有

- (工夫) 目標・目的を共有する
- (課題) 目指す方向が食い違う
- (課題) サロンでの話題：何を取り上げるか？誰が主導するか？タブーの話題は？

3 グループ

【付箋】

1. 参加者

- 若い世代が参加しやすいようなグループと開催日についての検討
- 同期生（ステージ、病態別）
- 緩和ケア病棟遺族の会と患者サロンの持ち方をどのようにしていくか。
- 男性患者の参加しやすさ
- イベントの年間計画・インフォメーションの工夫
- がん種別・病態別に参加目的が異なる
- 参加目的一ニーズ別

2. サロン運用・継続の課題

(1) お金

- 拠点病院だから持ち出しているが、継続的には難しい。拠点がはずされる可能性もある。
- ピアサポートグループだけで独立採算がとれるように育てたい。
- 寄付の申し出はあるが、「色」がつくので拒絶中。

(2) 場所

- 小学校、公的施設

(3) 人員

- ボランティア

(4) その他

- 院内患者サロンの機能をどこまで充実させていくか
- サロンの運営にどのように患者・家族を巻き込んでいくか
- 院内・院外・地域で目的は異なる
- サロンの評価方法：参加者、予算のための資料（継続するため）

3. 運用の工夫

(1)まとめり1

- (工夫) 毎回終了後、シェアリング、気づいた点を記録し、次回開催前に再度確認する。
- イベントの周知方法として、院内放送を活用する。
- ホームページやポスター掲示など広報活動に力を入れている。
- 一度参加してくれた方が継続して参加しやすいよう年間スケジュールを配布している。
- (工夫) サポーター (ボランティア) の紹介カードを作成している。
- セルフヘルプグループやHP主催など、それぞれで内容が違うのでどれがそれぞれの個人にあうのか相談窓口があればよい。

(2)まとめり2

- 患者サロンは、相談支援センター近くの場所に常設し、疾患や患者会情報などの情報提供をしている。
- ピアサポーターによる病棟への出張プチサロン会、プチ交流会
- 月に1回のミニ勉強会で相談支援スタッフ等から役立つ講座を行っている。

(3)内容の工夫 (まとめり2のグループと線につながっている)

- 気をそらせる→→→作業
頭から離れない
作業：イメージ、がん患者・家族への作業療法
- 初めての参加者が溶け込みやすい工夫
ヨガやアロマなどおしゃべり以外のことをもプログラムに入っていた方がよい。
- 宗教—ボランティア、心配なこと—法律

【まとめ】

1. 課題

- 参加者：性別（特に男性）、疾患（がん種別、病態別）によって、ニーズや目的が異なる。
- 一方で、多様なニーズがあり、多様な形態のサロンを患者が主体的に選べると良い。
- 自分にあつたものを選ぶ。
- 運営に関する課題
お金、人員、場所の確保、ボランティア、継続性、
寄付（企業、個人）を活用するか

2. 工夫

- 運用について
- 内容：プログラムにリラクゼーションに関すること
- 場、雰囲気
- アクセスのしやすさ
- 形態：交流会や勉強会

4 グループ

【付箋】

1. 課題

(1)対象者：メンバー構成

- がん種ごとに分けてしまうと、症例の少ないがん種の患者さんが参加しにくい。
- 定例会として週1回 13時-15時に開催しているが、今後どういうふうにしたらよいか、ニーズもこのままといわれる。
- がん種を限定してしまうと、医療的などところに話題が特化されてしまう。

(2)対象者：人数

- 参加者が毎回少ない。どのようにしたら参加につながられるか。
- サロン参加者をどのように増やすのか、いつも同じ人の参加になっている。
- 新規参加者が来られても、継続されない。入院ではくるが外来通院になると来ない。
- 参加者が固定されている。
- 継続して参加してもらえる人が少ない。人数が増えない。

(3)広報

- サロンがあることが院内にあまり周知されていない。
- 院内サロンの広報の仕方をどのようにしたらよいか。
- 地域への声かけが必要。どのような方法が効果的か。

(4)対象者+広報 工夫

- 院内の広報誌に1年間の予定を載せる。病院のHPに載せる。
- 直接病棟に出向き、対象者に案内する。
- 各病棟にポスターを貼っている。定例会には案内板を置いている。
- 参加者確保のために、ミニ講座の年間計画を発表
- 院内サロンで、疾患別(乳がん)、対象(小児 家族)を少しずつ実施している。
- 体験に共通点があったほうが話しやすいという観点から、がん種ごとにわけたサロンを開催。

(5)日程・時間

- (課題) 院内サロン 現在、月1回日曜日を固定しているが、そうになると他の曜日の外来患者が参加しにくい。
- (工夫) 火曜→水曜→火曜と隔月で開催曜日を変える。

(6) 運営主体

- 相談員のマンパワー不足
- (課題) 運営の主体を相談支援センターから、患者・家族に移行できないか。
- 運営主体：患者中心のサロン運営にしたいが、適当な人材がない。
- キーパーソンになりそうな方を見いだす。
- リピーターの方 グループの中でファシリテーターの役割をしてくれる方が出てくる。

(7) 経済 (費用)

- (課題) お茶を出したいが、経済的なバックアップはない。
- 県の補助金の活用。

(8) 人材育成

- (課題) ピアサポートの仕組みがない。
- 地域の患者会・サポートグループとの協働。

(9) 内容

(課題)

- 話をする人が限られてしまう。
- フリートークにして、会の進行も参加者（患者さん）におまかせしているが、話題がつかえてしまう（メンバーが固定されていることもあるかも）。
- 講義される医師へ一人の方の質問が集中してしまうのをどのように防ぐか。

(工夫)

- 会議室を使っている為、話しやすい雰囲気 연출 する。お花。
- 院内サロン テーマを決めて医療者のミニセッションを毎回実施している。
- 年3回小講義を開催（内容はアンケート結果を参考に設定）。
- 事前に聞きたいこと、知りたいことを聞き、グループ分けをし、聞けるようにする。
- 決まった人ばかりが発言しないように、話しやすい雰囲気作りに配慮している。

【まとめ】

(課題)

1. 対象者に関して

- がん種ごとにわけると参加者が限定される。
- 参加者が増えない、固定される。

2. 内容

- 一人の人が話をしてしまう。

3. マンパワー不足

4. 運営主体、人材育成

(工夫)

- テーマを決めて、15分程度のミニセッション後、フリートークに。決まった人ばかりが話をするような工夫。
- ピアサポートの育成。

5 グループ

【付箋】

1. サロンの運営。

(1) 資金

- 運営費をどうするか。
- サロン運営の資金をどうするか。

(2) 開催日

- 平日は参加しにくいという声がある。

(3) サロン運営

- がんサロンの雰囲気作り。

(4) トラブル対処

- サロンでのトラブル対処について。
- 遺族の方の参加希望があった場合の対応。

2. サロンの場所

(1) 院内

- 遠方に住んでいる方の参加が難しい。
- 参加しやすいサロン（場所）にするにはどうすればよいか？

(2) 地域

- 場所が狭い（狭くなってきた） (1)と(2)両方に入る。
- 場所の確保。

3. サロンの広報

(1) そもそもどうやってPR

- 広報の仕方はどうしていくのがよいのか。
- 広報の方法について。

(2) 理解を得るには

- 院内で、がんサロンの役割をどのように知ってもらうか。

(3) 広報が行き届かない？

- 参加者が固定して新規参加者が少ない。
- 新規の参加者が少ない。

4. サロンのマンパワー

(1) スタッフ・協力者集め

- スタッフ集め。
- 院内（周り）に協力者を増やしていくにはどうしたらよいか。
- やりたい人ができる人ではない。

(2) 育成

- スタッフの育成。

(3) スタッフの構成

- スタッフメンバーの職種。

(4) 運営の移行

- 病院主体から患者・家族に運営を移していく時の注意点は？
- 参加者の中でのリーダーへの移行が難しい。

(5) 継続のために

- 医療者との距離の取り方。
- スタッフのモチベーション（人間関係）。
- 時間の経過とともに、協力者が減る。

【まとめ】

4つの問題にわかる

- サロンのマンパワー
- 広報
- サロンの場所確保
- サロンの運営

1. 場（地域・院外←→院内 2つのグループがある）

(1) 地域

医療者もスタッフの一員としているが、専門的な知識を言いたがる→聞きたがる。